

志遊學

賤

賤ハイヤシト云フ、貴ニ對スルノ稱ニシテ、身分ノ低キモノヲ謂フナリ、我國往古平民ニシテ、特ニ族姓ノ賤シキモノアリ、之ヲ賤民ト稱ス、事ハ政治部賤民篇ニ在リ、宜シク參看スベシ、

名稱

〔類聚名義抄具三〕賤ミイヤシ 賤音錢 イヤシ 和仙

〔伊呂波字類抄伊事〕賤イヤシ 苟 恻 鄙 芮 卑尊卑 微 但 民 恹 窟 陋 叢叢小貌 芮

俾 得 穎 聃 菓 廝 訕 頑 衡 洩 竄 俳 眇 醜 翳 嚙 窶 亞厄文 固

下 偷 野 劣已上イヤシ

〔倭訓栞前編三〕伊 いやし 鄙又卑賤をよめり、彌下の義なるべし、日本紀に微をもよみ、靈異記に斯下をよみたり、

賤例

〔日本書紀景行〕二十七年十二月、到於熊襲國、中 川上梟帥啓之曰、汝尊誰人也、對曰、吾是大足彥天皇之子也、名日本童男也、川上梟帥亦啓之曰、吾是國中之強力者也、是以當時諸人、不勝我之威力、而無不從者、尙多過武力矣、未有若皇子者、是以賤賤イヤシキヤツコ 賤賤一 イヤシキ 陋口以奉尊號、略 下

〔水鏡元明〕同銅 和 二年五月に、新羅の使さまぐの物をあひぐして參れりしに、不比等その使にあひ給ひにき、昔より執政大臣のあふ事は、いまだなき事也、しかれどもこの國のむつまじき事をあらはするより、との給ひしかば、使ども座をさりて拜し奉りて、うるはしく又座につきて、使どもは本國のいやしきものどもなり、王の仰をかうぶりて、いまみやこにまいれり、さいはいの